

新登場

INETAISHO

# 稲大将

## 箱粒剤



外敵の侵入、  
許すまじ!

紋枯病に!  
Inpyrfluxam  
インピルフルキサム

有効成分が  
幅広い害虫に  
Oxazosulfyl  
オキサゾスルフィル



いもち病



紋枯病



イネツトムシ



フタオビコヤガ



ミカメイチユウ



コブノメイガ



イネドロオイムシ



イネミスズムシ



イナゴ類



トビロウソウ



ヒメトビウソウ



セジロウソウ



ツマグロヨコバイ

- ① 3成分で水稲の主要病害虫と細菌性病害の防除可能
- ② 新規殺虫成分が幅広い害虫・既存の殺虫剤に抵抗性を持つ害虫にも高い効果
- ③ 新規殺菌成分が紋枯病に高い効果
- ④ は種時～移植当日まで使用可能

有効成分: オキサズルフィル……2.0% インチアニル……2.0% インピルフルキサム……2.0% 人畜毒性: 普通毒(毒劇物に該当しないものを指していう通称)

適用病害虫および使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	オキサズルフィルを含む農薬の総使用回数	インチアニルを含む農薬の総使用回数	インピルフルキサムを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り50g 高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り50~100g)	は種時(覆土前)	1回	育苗箱の上から均一に散布する	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	1回
	いもち病、白葉枯病 もみ枯細菌病、紋枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 イネミズゾウムシ イネドロオウムシ ウンカ類、ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ フタオビコヤガ、イネツトムシ コブノメイガ、イナゴ類	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り50g 高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り50~100g)	は種時(覆土前)~移植当日					
稲	いもち病、紋枯病	1kg/10a	移植時		側条施用		3回以内(直播ではは種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	

2022年6月現在の登録内容

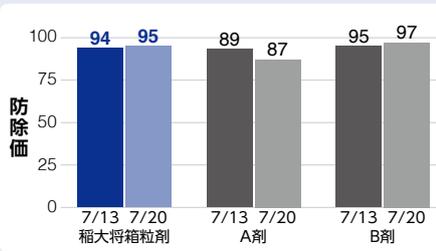
試験成績

いもち病

試験場所 長野県農業試験場(2020年)

品種 コシヒカリ  
播種日 5月8日  
移植日 5月27日  
処理時期 移植当日  
発生状況 葉いもち 中発生(接種)  
調査日 7月13日(移植47日後)  
7月20日(移植54日後)

調査方法 各区100株(無処理区は30株)全葉の病斑数を調査し株あたり病斑数を求め、防除値を算出した。

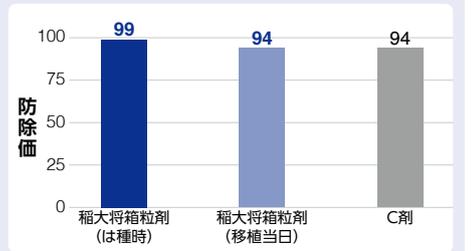


紋枯病

試験場所 (一社)日本植物防疫協会 宮崎試験場(2020年)

品種 ヒノヒカリ  
播種日 6月5日  
移植日 6月23日  
処理時期 は種時(覆土前)および移植当日  
発生状況 多発生(接種)  
調査日 9月28日(移植98日後)

調査方法 各区100株の発病株率と発病株の病斑高率を調査し羽柴氏法により被害度を求め、防除値を算出した。



イナゴ類(コバネイナゴ)

試験場所 鳥取県農業試験場(2020年)

品種 きぬむすめ  
播種日 5月7日  
移植日 5月29日  
処理時期 稲大将箱粒剤 は種時(覆土前)  
D剤 移植当日  
発生状況 少発生  
調査日 6月26日(移植28日後)  
7月8日(移植40日後)  
調査方法 6月26日は計100株のみとり調査  
7月8日は計40回の捕虫網によるすくい取り調査

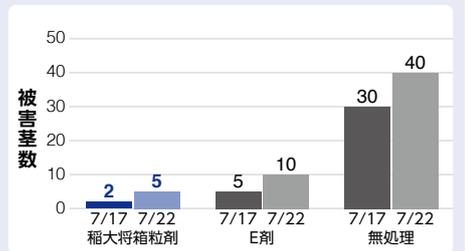


ニカメイチュウ

試験場所 (公社)石川県植物防疫協会(2020年)

品種 コシヒカリ  
移植日 5月6日  
処理時期 移植当日  
発生状況 少発生(卵塊接種)  
調査日 7月17日(移植72日後)  
7月22日(移植77日後)

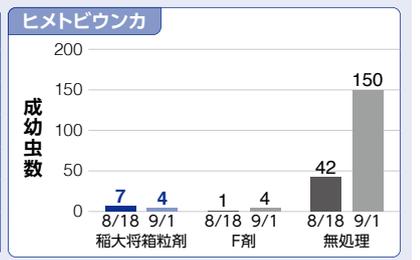
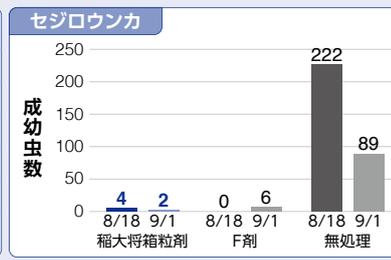
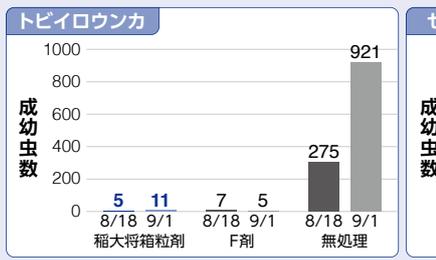
調査方法 計99株について被害数を調査



ウンカ類

試験場所 (一社)日本植物防疫協会 宮崎試験場(2020年)

品種 ヒノヒカリ  
播種日 6月5日  
移植日 6月23日  
処理時期 移植3日前  
発生状況 トビウウンカ少発生、セジロウンカ・ヒメトビウウンカ少発生  
調査日 8月18日(移植56日後)  
9月1日(移植70日後)  
調査方法 計90株について粘着板への払い落としで虫数を調査



注意事項

〈薬効・薬害等の注意〉

- 育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植してください。
- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当りに乾粉として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整してください。
- 側条施用する場合は、粒剤が均一に散布できる施用装置を装着した田植機を使用してください。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗等には薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
- 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはいないに行い、移植後田面が露出しないように注意してください。
- いぐさ栽培予定水田では使用しないでください。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田ではいぐさを栽培しないでください。
- さく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布してください。また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透をさけてください。

- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 低温での育苗箱条件下では生育抑制を生じるおそれがあるので、温度管理に注意してください。

〈安全使用上の注意〉

- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 使用の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 水産動物(魚類)に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないでください。
- 水産動物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意してください。
- 直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には使用しないでください。
- 小児の手の届く所には置かないでください。
- 空袋は圃場等に放置せず適切に処理してください。

2022年6月作成 日立DS P1202206004